

コード No.

提出日：2019 年 10 月〇日

平成 31 年度「第 8 回 CENA 夏季学校」報告書

公益財団法人早稲田奉仕園
片岡平和

1. プログラムの目的

多宗教・多文化の背景を持つアジア各地の若者が集い、共同生活と学びを通じて多様な価値観に触れ、武力によらないアジアの平和構築について考え、実践する人材育成を目的にする。今回は 2019 年 8 月 26 日（月）から 31 日（土）まで沖縄県那覇市にて「なぜ国民国家は人びとを殺すのか？」をテーマとし、沖縄にて第二次世界大戦中の歴史や現在も続く在日米軍基地問題について学びます。教授陣による講義や学生プレゼン、ゲスト講義のほか現場研修を行い、学びを深める。

CENA (Civil Society Education Network in Asia) 夏季学校は 2012 年から毎年行われている。日本からは早稲田奉仕園、恵泉女学園大学、聖心女子大学、韓国からは聖公会大学校、韓信大学校、台湾からは世新大学、タイからはアジアイスラーム教徒活動ネットワーク AMAN、インドネシアからインド・イスラーム大学 UII、そして今回新たにパキスタンからコミュニティ・ワールド・サービス・アジア CWSA が共催する。

2. 主な活動内容・スケジュール 2019 年 8 月 26 日（月）～31 日（土）

8 月 26 日	参加者那覇空港経由で宿泊所沖縄国際ユースホステルに到着。 夜：夕食、オープニングセッション、CENA の歴史紹介、自己紹介、グループ作り、アイスブレイク
8 月 27 日	午前：ゲストスピーカーによる沖縄の歴史、米軍基地問題に関する講義（講師：宮城公子、金井創、徳森りま 司会：上村英明） 午後：首里城の歴史についての講義、首里城訪問、グループごとに自由時間 夜：米軍基地問題に関する映像視聴
8 月 28 日	午前・午後：終日フィールドワーク（平和祈念公園、辺野古キャンプシュワブ、瀬嵩海岸、瀬嵩公民館、チビチリガマ、沖縄国際大学から普天間基地視察）
8 月 29 日	午前：フィールドワーク振り返り、グループ代表者発表、ディスカッション 午後：国別学生発表（韓国、台湾、インドネシア、日本） 夜：教職員ミーティング、学生最終日カルチュラルショーに向けて準備
8 月 30 日	午前：ゲストスピーカーによる講義「現代沖縄の諸問題」「長期間の米軍駐留と沖縄の女性」（講師：平良識子、高里鈴代）、グループディスカッション 午後：グループディスカッション、代表者発表、全体振り返り

	夜：カルチュラルショー
8月31日	各自那覇空港経由で帰路、解散

3. 助成を受けた活動の報告（様子がわかる写真等があれば貼付してください）

日本の参加者は事前学習として5月25日（土）から26日（日）まで福島でフィールドワークを行った。CENA 期間中の学生発表のために福島の現状を学んだ。また7月6日（土）にも教授による講義と学生発表の準備のために事前学習会を早稲田奉仕園で開催した。

今年は8月26日（月）から31日（土）まで、沖縄那覇市沖縄国際ユースホテル及び沖縄大学にて「Why a State Kills People? なぜ国家は人びとを殺すのか？」をテーマに開催した。全日程参加者は11 か国からの大学生と大学院生 54 名と教職員 18 名の計 72 名だった。さらに韓国・台湾から 23 名の部分参加者を加え、延べ 95 名の参加者となった。

今年は昨年に引き続き「国家暴力」をテーマに講義、フィールドワーク、学生発表を中心として様々な国と地域の視点から学び、平和構築の可能性をともに考える機会とした。講義では沖縄の歴史、米軍基地問題、現在の国民感情などを講師から講義があった。28日には一日フィールドワークを行った。佐敷教会の牧師で活動家の金井創氏にガイドを依頼し、平和祈念公園、辺野古キャンプシュワブ、チビチリガマ、沖縄国際大学から普天間基地視察を行った。沖縄戦での悲惨な状況と現在も続いている米軍基地問題を一日の内で体感することができたことで、その後の座学もより実感を持って聞くことができた。また国ごとによる学生発表も行った。韓国、台湾、インドネシア、日本の学生が各1時間ずつそれぞれの国の「国家暴力」について発表した。日本の参加者は福島原発の問題について発表をした。事前学習フィールドワークで学んだことを踏まえ、客観的なデータを加えて福島原発事故の問題点を発表した。それぞれの国別発表からは異なった問題を抱えていること、その中で共通した権力構造による人々の抑圧が読み取れた。座学だけでは分からない細部の感情などを共同生活とフィールドワークで互いに理解を深めることでより実感の伴った学びの機会にすることができた。

また9月29日（日）に早稲田奉仕園で報告会を行い、参加した学生から一人ずつ感想を聞く場を設けた。それぞれの学びを振り返り参加者以外の人にも発表する機会となった。



最終日に沖縄大学にて

4. 活動の成果（成果物などがありましたらご紹介ください）

別冊の報告書、早稲田奉仕園スタッフのブログより報告記事

<https://blog.hoshien.or.jp/2018/09/19/7thcena/>

5. 今後の課題

来年の第9回 CENA 夏季学校は台湾での開催を予定している。台湾・世新大学と協議をし、受け入れが可能か検討する必要がある。

運営委員会のミーティングで第10回を区切りとすることを確認している。CENA のネットワークを活かし、同様の夏季学校を継続させたいという声もあるため小規模の夏季学校を存続させることも検討している。今後もミーティングを重ね、運営委員会内で具体的な話を協議していく必要がある。